

ライチョウの未来

地球温暖化がライチョウの命を奪う

静岡市内中学校

田村さん

みなさんは、現在北アルプス（富山県・長野県）、南アルプス（静岡県・山梨県・長野県）の高山地帯にしか生息しないライチョウという鳥を知っていますか。

私は今年の七月に立山黒部アルペンルート（長野県大町市扇沢から富山県の室堂）の行程で家族でトレッキングの旅をしました。

この旅の中での一番の思い出は、富山県の立山の室堂平を歩いた時、ライチョウを見たことです。お母さんライチョウの周りで、一生懸命に餌の野草を食べる五匹の身体、ゆったりとした動きの小さなヒナのライチョウの姿がとてもかわいらしく、多くのハイカーの方たちも、カメラのシャッターを押していました。私は一目でライチョウのファインになり、ライチョウのことが知りたくなりました。そこで、ハイカーの方から、

「ライチョウのことが詳しく知りたかったら、室堂にある立山自然保護センターに行くと良いよ。」

と教えて頂き、行くことにしました。

センターのスタッフの方から、ライチョウについての色々なお話を聞かせてもらいました。

「海外のライチョウは、狩猟対象であるため人を見ると一目散に逃げますが、日本は昔から高山信仰があったので、高山に住むライチョウは神の鳥として守られてきた。また、ライチョウは日本が旧石器時代（氷河期）に大陸から渡ってきて、氷河が溶け始めて大陸に戻れなくなり、日本の高山に住みついた。日本のライチョウは、世界中のライチョウで一番南に生息し、日本には北アルプスと南アルプスにしか現在生息が確認できていない。」

などたくさん興味深いお話を聞かせていただきました。

その話の最後に、スタッフの方が、心配そうな顔で、

「ライチョウは現在国内に一七〇〇羽以下しか生存してなくて、絶滅危惧動物ⅡB（かなり危険）になってしまっていて、今、手を打たなければ国内絶滅のトキのような状態になってしまう。」

と話していました。そして、一番の原因は、私たち現代人が引き起こした地球温暖化だということを説明してくれました。その話を聞いて、地球温暖化とライチョウの関係を調べることにしました。

地球温暖化によって、ライチョウの命が奪われてしまう理由は三つ

あります。

一つ目は、ライチョウは季節ごとに体の羽の色が変わります。夏は茶色で土と同じ色になり、冬は雪と同じ白色になります。こうすることによって、天敵に見つかりにくくなるのです。しかし、地球温暖化の影響で、山に雪があまり降らなくなり、まだ雪が降っていないのに羽の色が白くなるので、逆に目立ってしまいます。その結果、天敵に見つかり食べられることが多くなってしまいました。

二つ目は、本来低地に生息するきつね、テン、カラスが地球温暖化によって高山帯に侵入し、ライチョウを襲うようになってしまったことです。

三つ目は、高山帯にまで上がってこなかったシカやサルが地球温暖化により、行動範囲を広げ、高山植物を荒らすようになってしまったことです。

私は、人なつっこくて、丸い身体、ゆったりとした動きのライチョウがとても好きなので、今すべにでも地球温暖化を止めたいです。

そのために、私が取り組んでいること、取り組もうとしていることは、大きく五つあります。

一つ目は節電です。私の家では、使っていない部屋の電気やエアコンは消して、使わない電化製品は電源を切り、コンセントからプラグを

抜いています。また、エアコンの設定温度は、夏は二十八度にしていきます。

二つ目は、自宅の窓際にゴーヤの緑のカーテンで、直射日光を遮るだけでなく、植物の蒸散作用で部屋の温度を下げて、エアコンの付ける時間を減らしています。

三つ目は、スーパーやコンビニへ買い物へ行くときはエコバックを持って行き、できるだけレジ袋をもらわないようにしています。

四つ目は、近くの場合にでかけるときは車は使わず、自転車を使うようにしています。

五つ目は、リサイクルです。当たり前のことですが、ポイ捨てはしないで牛乳パックやビン、カン、ペットボトル、古紙などリサイクルできるものは全てリサイクルボックスに入れていきます。

しかし、私達ができることをするだけでは、限界があると思います。地球温暖化を止めるためには、国が国民を導いていくことも必要だと思います。具体的には、太陽光発電や風力発電などの自然の負荷が少ない再生可能エネルギーを、さらに普及させるべきだと考えます。

一人一人が意識することに加えて国の政策を変えなくてはいけません。しかし、日本は個人の意識と国の政策が繋がっていないと思うことがあります。これは、私たち若者が政治に興味がないからです。

環境問題は私たちの未来に関わる大切なことです。環境を良くするための政策はどのようなものか、真剣に考え自分の意識を政策に反映させるために、今後、十八才になったら選挙に行くなど自分も国の方向を決めるという意識をもたなければいけないと思いました。